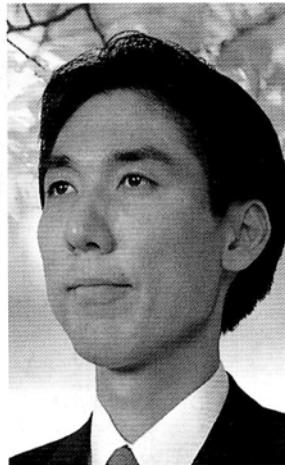


城内 実の視点！ 時代を考察する(3)

— いざなぎ景気を上回る
好景気の到来？ —



前衆議院議員・拓殖大学客員教授 **城内 実**

いざなぎ景気を上回る好景気の時代に入ったと政府やマスコミは喧伝しているが、実際はどうであろうか。私の出身地の地元の浜松市はもづくりの町であり、スズキ自動車、ヤマハ（旧日本楽器）、ホンダ、河合楽器、浜松ホトニクスなど世界的な大企業の拠点であり、日本全体の中ではどちらかというと最も景気が良いほうである。

確かに北海道の夕張市やそのまんま東氏こと東国原知事が誕生した九州の宮崎市に比べれば浜松市は大変恵まれている。昨年末にある市内の大衆的な居酒屋に友人と訪れたが、その店のカウンターで飲んでおられた方は東北から冬期に出稼ぎに来られた方であつた。いろいろ話を聞くと私の母の出身地である秋田県雄勝郡の湯沢近辺の方ということが分かつた。懐かしい母

方の祖父のお国なまりを聞いて現在病氣で療養中の母のことを思いだしぐつと胸が熱くなつた。このように遠く秋田からも浜松に仕事に来る。地域間の格差はどんどん進んでいると感じた。

浜松市そしてお隣りの湖西市（トヨタ発祥の地）、新居町（日本で唯一現存する閑所の町）な

どの静岡県西部は大企業のおかげで雇用面ではかなり恵まれている。上述のように他府県のみならずブラジルからも多くの方々が仕事に来られて浜松近辺の労働不足を解消している。

しかしながら、地元の大企業や中堅の一次下請け企業はさておき、中小の二次、三次下請け企業の実態はどうであろうか。地元にある私の親戚筋の社長さんが経営している町工場では、社長とその奥さん、息子さんの二人で会社をきりもりしている。最近景気の良い中国や未だにイラクと戦争中のアメリカといった諸外国の外需のおかげで仕事の量は増えたが、大企業によるコストダウンで昼夜分かたず、あるいは土日返上して仕事をしても単価をぐつと下げられて収入もさして増えていないそうである。外国人の労働者に頼る余裕もない。

このような中小企業は全国でも多いのではないかだろうか。中小企業や個人商店が「規制緩和」路線や「市場原理主義」のあたりを受けており、一部を除いて全体的には景気回復の実感に乏しい。そもそも日本の雇用と経済は中小企業が支えている。その中小企業こそが元気を取り戻さ

なければ長い目で見て日本全体の景気が良くなろうはずがない。三位一体の地方分権化にしても税源移譲が充分に行われていない現状にあつてはむしろ中央集権化が一層進むのではないかと危惧するがどうであろうか。

今年の四月一日から浜松市は政令指定都市になつた。全国でも最も面積の広い市の一つである。私の祖母が生まれ育つた佐久間ダムで有名な中山間地域の旧佐久間町も合併で浜松市となつた。

祖母の生家があつた場所の斜め前には今でも明治七年開局の西渡郵便局があるが、祖母が生まれた大正時代には西渡は林業と鉱山で栄えた町であつた。当時は大変なにぎわいであり、芸者さんもたくさんいたそうである。その西渡も今では過疎化のあおりを受け、祖母が卒業した伝統ある山香小学校も昨年三月をもつて佐久間小学校と合併して廃校となつてしまつた。なんともさびしい限りである。

先日浜松市の町中で九十近い老婆に出会つたところ、亡き祖母のことを懐かしく語り出した。大変驚いた。祖母の山香小の後輩で西渡の近所

に住んでいた方だという。祖母の父が八十年前まで西渡で経営していた菓子店「やまとや」のことをいろいろ教えてもらつた。

当時としては山の中に似つかわしくない大変ハイカラなお菓子屋さんで、店の正面には西洋

は日本国土全体を豊かにするためにも必要不可欠な国家的事業である。今こそ人と自然が共生し、お互いが助けあいながら、「勝ち組、負け組」路線ではなく、「我も人をもの幸せ」や「和の精神」を大切にしなければならない。

プロフィール

城内 実 (きうち みのる)

昭和四〇年 四月一九日生まれ

平成元年 東京大学教養学部国際関係論分科を卒業し、外務省に入省

平成二年 在ドイツ日本大使館勤務

平成九年 天皇陛下、総理等のドイツ語通訳官

平成一四年 外務省を退官し、公募に応募

平成一五年 衆議院議員初当選（無所属）

平成一六年 党改革実行本部幹事

平成一七年 農林水産委員会委員、環境委員会委員、郵政民営化特別委員会委員

平成一八年 第四十四回衆議院選挙にて七四八票差で惜敗

平成一九年 拓殖大学客員教授

嘗々と築いてきた農山村地域の原風景も都会型の経済効率主義、弱肉強食型の市場原理主義などによって破壊されつつある。農山漁村の保全